

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：木村 昌司

事業名	くになか 国仲バイパス（一般国道350号）	事業区分	一般国道	事業主体	新潟県	
起終点	自：新潟県佐渡市太和 至：新潟県佐渡市中原	延長	8.7km			
事業概要	一般国道350号は、新潟県新潟市を起点とし、新潟県上越市に至る幹線国道である。国仲バイパスは、佐渡市中心地の重要道路に位置づけられ中央を横断する幹線道路であり、通過する交通を排除する事により、交通円滑化と交通安全性向上を目的とした延長8.7kmの2車線道路である。					
H9年度事業化	H年度都市計画決定 (H年度変更)	H11年度用地着手	H11年度工事着手			
全体事業費	88億円	事業進捗率	49%	供用済延長	km	
計画交通量	11,200 台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.7 (残事業) 3.7	総費用 (残事業/事業全体) 42/90 億円 〔事業費：33/82億円 維持管理費：8/8億円〕	総便益 (残事業/事業全体) 153/153億円 〔走行時間短縮便益：176/176億円 走行費用減少便益：-18/-18億円 交通事故減少便益：-5/-5億円〕	基準年	平成18年	
感度分析の結果	交通量変動：B/C=1.9（交通量+10%）、B/C=1.5（交通量-10%） 事業費変動：B/C=1.5（事業費+10%）、B/C=1.9（事業費-10%）					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保・・・第三種空港「佐渡空港」へのアクセス向上が見込まれる。 ・国土・地域ネットワークの構築・・・隣接した日常活動圏中心都市を最短で連絡する。 ・安全で安心できる暮らしの確保・・・二次医療施設「佐渡総合病院」へのアクセス向上が見込まれる。 					
関係する地方公共団体等の意見	合併した佐渡市より早期整備及び早期供用開始の要望が出されている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	島内の市町村が平成16年度より市町村合併により一島一市となり行政の一本化となった。 (H11センサス：19,483台/日 H17センサス：19,180台/日)					
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業用地の取得を進めており、先線の計画を踏まえ残用地は約50%である。残事業は橋梁5橋を含む8.7kmである。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	終点側で用地交渉が難航している箇所があることと、軟弱地盤箇所の対策に時間を要している。買収に向け理解が得られるように鋭意交渉を続けると共に、軟弱地盤対策の完了箇所から工事を進め、事業の進捗を図る。					
施設の構造や工法の変更等	特になし					
対応方針						
対応方針決定の理由	事業の必要性や重要性は高く、事業進捗も見込まれることから、継続が必要である。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。